

令和4年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT教育機器を効果的に使用したり個に応じた指導を展開したりしたことにより、手縫いやミシン縫いにおける技能の習得速度の差をカバーすることができた。
- ・調理実習の計画を立てる際にプログラミング的思考を取り入れることにより、準備や片付けまでの見通しをもち、安全かつスムーズに作業を進めることができる児童が増えた。
- ・自らの生活の中から課題を見付けること、学習したことを生かして解決方法を考えること、解決方法を考える際は「生活の営みに関わる見方・考え方」を働かせて考えることで、学んだことを実生活に生かそうとする児童が増えた。旬の食材や五大栄養素を意識して給食を食べる、買い物に行く際はエコバッグを持参する、家族の出身地に関わりのある伝統的な食材や調理法に興味をもって調べるなどの姿が、以前より多く見られるようになった。

(2) 課題

- ・感染拡大予防の観点から、今年度も例年どおりの調理実習の実施が難しい。感染状況に応じて一人調理や二人調理、調理時の児童や調理台の配置など感染防止を十分に意識した調理実習のあり方を確立させていく必要がある。

2 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で触れる機会の多い知識や技能については、理解の深まりが見られる。一方、各家庭で日頃実践している内容が誤っていた場合、誤った知識としてそのまま身に付いている傾向もある。また、調理や裁縫に関する生活経験が少なく、実感を伴って理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に関する事前アンケートや家庭でのインタビュー活動などを実施した上で、生活の中から問題を見だし、課題を設定することができている。 ・調理や裁縫に関わる用語を適切に用いて自らの考えを表現することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階見本を参照しながら手順を確認したり、縫いしろを考えてゆとりを設定したりするなど、自分の作りたいものに合わせて粘り強く取り組む姿が多く見られる。 ・自らの生活から問題を見だし学習課題を設定したことで、題材の学習後も「学習したことを生かして家庭で取り組みたい。」と意欲を見せる児童が多く見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の家庭生活で身に付いている既存の知識についても、それらが活用される具体的な生活場面を明らかにしながら考えさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科でも取り組んでいるはがき新聞などを活用し、教科横断的に表現活動に取り組ませる。 ・一人1台端末を活用し、一連の題材に関わる自らの思考の流れをポートフォリオ形式で記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を実生活に反映させ、そこからさらに問題を見だし課題を設定していくことのできる学習および思考の流れを浸透させていく。